

2026 年 7 月社員総会 招集通知

日程： 2026 年 7 月 11 日（土） 13:00

場所： 東京都新宿区霞ヶ丘町 4-2

JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE

14 階 岸清一メモリアルルーム 3

公益社団法人日本フェンシング協会

FJE 発第 R7-179 号
2026 年 6 月 23 日

社員各位〈支部正会員各位〉

公益社団法人日本フェンシング協会
会長 千田 健一

ごあいさつ

謹啓 向暑の候 正会員の皆さんにおかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より公益社団法人日本フェンシング協会の活動及び運営に、格別なるご理解ご協力を賜り、協会を代表し衷心より厚く御礼申し上げます。

この度、令和8年7月総会を開催することとなりました。ご多用のところ大変恐縮に存じますが、皆様のご意見を頂戴しながら今後のフェンシング協会の運営に役立ててまいりたいと存じますので、多くの皆様にご出席を賜りますようお願い申し上げます。

さて、現在当協会では、各種大会運営や選手強化活動、組織改革や財政健全化に向けた取り組み等課題は多岐にわたっており、それらの課題解決に向け全力で取り組んでおります。しかしながら近年においては、国内における協会運営のみに視点をとどめている状況にないことも事実であります。皆様ご存じのとおり、パリ 2024 オリンピックでの活躍により、すでに国外からは日本フェンシング界が世界のトップリーダーに君臨する強国との評価を受けており、国際フェンシング連盟（FIE）からもフェンシング界全体への積極的な国際貢献が期待されております。

そしてその流れの中で、この度FIEからの要請により、昨年まで開催されておりました男子フルール単独での高円宮杯ワールドカップを、今年より男女フルールの同時開催での大会拡大要請を受け、現在開催準備に全力で取り組んでおります。このように、すでに国内だけに留まらず世界的な役割を担っていく責務を自覚しながら、今後国内はもとより、世界フェンシング界全体への発展に目を向けていかねばならず、協会自体のアップグレードが必要と考えております。

現在、日本代表選手たちは世界各地で開催されるワールドカップを転戦し好成績を収めるなど、ロサンゼルス五輪に向け着実に歩を進めております。これからがオリンピック出場権がかかる大事な時期となります。8月の世界選手権大会や9月愛知で開催されるアジア大会はじめ各種大会での更なる活躍により、フェンシング王国としての地位をしっかりと固められるよう、我々もしっかりと選手達を支えていければと思っております。

今後も、様々な機会において各支部との連携を図りながら、理事全員が一丸となってフェンシング競技の普及・発展に向け全力を尽くし協会運営にあたってまいります。何卒皆さまのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げごあいさつといたします。 謹白

記

日時： 2026 年 7 月 11 日（土）13:00 から

場所： 東京都新宿区霞ヶ丘町 4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 14 階
岸清一メモリアルルーム 3

決議事項：【議案】第 37 期（2026 年 9 月-2027 年 8 月）事業計画及び予算（案）ご承認の件

なお、社員総会のスケジュールは同封の資料のとおりです。

以上

社員総会参考資料

目次

議案及び参考事項	2
【議案】第37期（2026年9月-2027年8月）事業計画及び予算（案）ご承認の件	2
1. 事業計画	2
2. 予算案	13

議案及び参考事項

【議案】第 37 期(2026 年 9 月-2027 年 8 月)事業計画及び予算(案) ご承認の件

1. 事業計画

(1) フェンシング競技の普及並びに指導(定款 第 4 条第 1 号)

1) 協会登録活動

近年登録会員数は順調に伸びており、昨年報告の通り 2025 年度は 7 千人台に達しました。これもひとえに、各支部の皆さま方ならびにそれぞれの選手たちとその周りの競技関係者たちによるご尽力の賜物であり、厚く御礼申し上げます。

同年度は、小学生以下の減員はありましたが、東京オリンピック後に登録数を急増させた子供たちの進学が背景にあり、今後はまた漸増で推移する見通しです。全体としては、少子高齢化が進む我が国にありながら、今後も継続した水準で伸びることが見込まれ、2028 年 LA オリンピックにおける日本人選手の活躍を足掛かりに、よりいっそう拡大できるよう努めてまいります。

登録会員数の推移

年度 (4月-3月)	一般	大学生	高校生	中学生	小学生 以下	合計	対前年	備考
2016	1,269人	805人	2,363人	692人	615人	5,744人	+ 194人	オリンピック(リオ)
2017	1,286人	842人	2,598人	760人	668人	6,154人	+ 410人	
2018	1,276人	856人	2,454人	760人	711人	6,057人	- 97人	
2019	1,247人	820人	2,346人	764人	780人	5,957人	- 100人	
2020	792人	591人	1,402人	585人	591人	3,961人	- 1,996人	感染症拡大
2021	1,226人	891人	2,190人	855人	631人	5,793人	+ 1,832人	登録費改定 オリンピック(東京)
2022	1,321人	769人	2,360人	950人	1,000人	6,400人	+ 607人	小学生以下1.6倍増
2023	1,321人	777人	2,511人	1,026人	1,160人	6,795人	+ 395人	
2024	1,355人	786人	2,526人	1,030人	1,242人	6,939人	+ 144人	オリンピック(パリ)
2025	1,464人	1,016人	2,723人	1,203人	1,093人	7,499人	+ 560人	
対前年	+ 109人	+ 230人	+ 197人	+ 173人	- 149人	+ 560人		
	108%	129%	108%	117%	88%	108%		
2026	1,480人	1,050人	2,825人	1,260人	1,155人	7,770人	+ 271人	見込み

一方、次表の通り区分別の構成比をみると、男女ともに高校生が最多となっており、しかし男性では一般が比較的多数であることに対して、女性では逆に最も少なくなっています。フェンシング競技に限られたことではありませんが、女性にも生涯スポーツとしてフェンシングに親しんでいただける環境を整えることが、当競技のさらなる発展に寄与するものとして今後の課題といたします。

区分別男女別構成比

区分	男性	区分別	女性	区分別	計	区分別	男女構成比	
一般	1,102人	23%	362人	13%	1,464人	20%	75%	25%
大学生	649人	14%	367人	13%	1,016人	14%	64%	36%
高校生	1,531人	33%	1,192人	42%	2,723人	36%	56%	44%
中学生	710人	15%	493人	18%	1,203人	16%	59%	41%
小学生	699人	15%	394人	14%	1,093人	15%	64%	36%
合計	4,691人	100%	2,808人	100%	7,499人	100%	63%	37%

2) 地方自治体との協力

当協会と協定を締結している佐賀県、沼津市とはフェンシング普及から育成強化に係る強固な協力体制を構築しており、今年度より JOC 認定競技別強化センターに両自治体のフェンシング練習場が認定されております。育成強化活動のハブ拠点として活用することで、両県から日本代表選手が輩出されています。

また、大分県大分市でサーブル日本代表の合宿を 11 年連続で実施し、その他の国内強化合宿においても鹿児島県垂水市、福岡県福岡市や田川市、長崎県島原市でも自治体の協力のもと実施し成果を収めていることから、今後も全国各地の自治体と協力体制を構築してまいります。

3) 高校・大学における振興活動

高体連（全国高等学校体育連盟フェンシング専門部）は、「競技力向上」「競技普及」「安全で公正な大会運営」を柱として、全国高等学校総合体育大会フェンシング競技大会や全国フェンシング選抜大会等の運営準備を行っています。特に 2026 年 3 月に長崎県島原市で開催された第 50 回全国選抜フェンシング記念大会には各都道府県から勝ち抜いてきたフェンサーが集結し、熱戦が繰り広げられ素晴らしい大会となりました。

また指導者研修会を開催して、競技力向上と指導体制、安全面の充実を図りました。さらに当協会との連携のもと、競技普及活動や情報発信を積極的に行い、高校生フェンサーの育成環境整備に努めました。全国の加盟校・登録選手数は堅調に推移しており、競技人口の維持・拡大に向けた取組みも継続しています。

一方地域によっては、少子化の進行に伴う競技人口確保や、部活動地域移行への対応、審判員・指導者の継続的育成等も今後の重要な検討課題となっています。

日学連（日本学生フェンシング連合）は、学生主体で運営する関東学生フェンシング連盟と関西学生フェンシング連盟からなる組織で、全日本学生選手権大会・全日本学生王座決定戦、各地区リーグ戦等の試合準備・運営を行っています。

また、国際大会でも活躍できる学生選手の育成を視野に、合同練習会や審判講習会等を開催し、指導者・審判員ともに連携強化を推進しています。2025 年度には日学連のホームページを試験的に開設し、情報発信の充実にも努めています。

6 月、11 月には社会人理事と共に日学連理事会を開催し、学生からの意見を聴収するなど、当協会の取組みを紹介する等両方向の情報共有の場として機能しています。

年々公式試合や海外遠征が増える中、勉学とスポーツとの両立、大学スポーツを取り巻く環境変化に日学連としてどう対応するかが今後の課題です。

4) 部活動支援活動

フェンシングの普及活動の一環として、渋谷区スポーツ協会と連携して部活動改革プロジェクトの支援を行います。渋谷区内の全ての中学校から学校の枠を超えて参加出来る複合型部活動として活動しております。フェンシング参加者数も増加しており、同活動から高校のフェンシング部に進学する事例も出てまいりました。

昨年からは新たな施設でも教室がスタートし、2箇所で開催しております。

引き続き指導者を派遣し、会員拡大の一助にしております。

5) 学校訪問活動

当協会では、渋谷区及び千葉県においてオリンピックやメダリストの協力のもと、フェンシングの魅力に触れていただく学校訪問プロジェクトを実施しています。東京 2020 オリンピックのフェンシング競技開催地である千葉県及び千葉県フェンシング協会と協力し、オリンピック前に機運を高めフェンシング競技を応援することを目的として、2018 年より同県内の小学校を対象に活動を開始しました。翌 2019 年には渋谷区においても学校教育の一環で活動を開始しています。

2026 年度は、渋谷区及び千葉県で各 5～7 校の実施を計画しており、来年度においても同様の頻度でフェンシング競技の普及活動を継続し、新規競技者の拡大も期待して進めてまいります。

また今年 9 月に開催される第 20 回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）を機として、同大会組織委員会からの働きかけに応じ、愛知県協会においても同県の半田市と常滑市の小中学校を対象とした、同大会のレガシーとなる学校訪問事業を始めました。今後は、全国各地への展開も視野に入れてまいります。

6) 選手のセカンドキャリア形成

選手のキャリア支援として、JOC（公益財団法人日本オリンピック委員会）のキャリア支援事業『アスナビ』を活用して現役選手の就職支援を行っております。

安心して競技に取り組める環境を望むトップアスリートと、彼らを採用し応援することで、社内に新たな活力が生まれることなどを期待してくださる企業との間に、Win-Win の関係を築いていくことを目的にしており、昨年度は 5 名の就職先が決まりました。今年度も継続して選手のキャリア支援を行なってまいります。

また、引退後のセカンドキャリア支援におきましても、スポーツ庁委託事業『スポーツキャリアサポートコンソーシアム』に参画し、協会理事が運営委員を務めてアスリートの持つ力を社会にどう活かし貢献するかをテーマに選手に情報収集の場を提供しています。3 月にはスポーツキャリアサポートコンソーシアム協力の下、『キャリア研修会』を実施し、オリンピック金メダリストから大学生の選手まで多くの選手が参加し、アスリートのセカンドキャリアについて学ぶ機会を創出いたしました。

7) 生涯スポーツとしての展開

以下の 3 項目を事業目標にします。

1. かつて学生スポーツで活躍した選手や、社会人になってフェンシングを始めた選手等が生涯スポーツとして競技を行える環境の整備、以て競技人口の拡大・普及。
2. アジアベテラン選手権、世界ベテラン選手権等の国際レベルを目指すベテラン選手の競技力向上。

3. 最新の技術情報、審判情報等習熟の機会提供、以て経験者のリカレント・トレーニング及び初心者指導層の技量向上の実現。

8) マーケティング・スポンサーシップ活動報告

マーケティング委員会では、既存スポンサー各社との契約更新活動を順調に完了するとともに、新たにゴールドスポンサー1社を獲得し、協会の財務基盤強化に取り組みました。また各社に対するアクティベーション施策を企画・実施し、パートナーシップ関係の強化および協賛価値の向上を図りました。さらに、第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）および2028年LAオリンピックを見据え、スポンサー向けチケットングやホスピタリティ施策の準備に着手しています。オリンピックに向けた機運の高まりを追い風に、新規スポンサー獲得に向けたアプローチを積極的に展開しており、引き続き競技・協会価値のさらなる向上とパートナー基盤の拡充に取り組んでまいります。

9) 広報・メディア露出強化に関する活動報告

ワールドカップ期間中は、試合結果のリアルタイム発信やInstagramの更新強化に取り組み、この一年間でフォロワー数が約3,000名増加し、合計でほぼ12千人に達しています。また、メダル獲得時には即日でプレスリリースを配信した結果、各メディアによるWEB記事掲載が定着してきました。世界選手権前には公開練習を実施し、男子エペチームのメダル獲得を受け帰国直後に囲み取材を行うなど、積極的なメディア対応を実施してきました。

さらに全日本選手権（個人戦）前には、メディア向けフェンシング体験会を開催し、代表選手との交流や実技体験の機会を提供いたしました。その結果、フジテレビによる特集放送が実現し、競技の認知度向上につなげることができました。

（2）日本選手権大会及びその他の競技会の開催（定款 第4条第2号）

1) 全日本フェンシング選手権大会（個人戦）

日程：2026年10月29日（木）武器検査

2026年10月30日（金）～2026年11月1日（日）

会場：駒沢オリンピック公園総合運動場体育館 〒154-0013 東京都世田谷区駒沢公園1-1

2) 全日本フェンシング選手権大会（団体戦）

日程：2026年12月17日（木）技術委員会会議 / 審判会議 / 監督会議

2026年12月18日（金）～2026年12月20日（日）

会場：アリーナくにとみ 〒880-1101 宮崎県東諸県郡国富町本庄11895

3) 高円宮杯フェンシングワールドカップ

高円宮杯フェンシングワールドカップ（個人・団体戦）は、2026-2027 シーズンより男女共同開催となります。

日程：2026 年 10 月 15 日(木)～2026 年 10 月 18 日(日)

会場：あなぶきアリーナ香川 〒760-0019 香川県高松市サンポート 6-11

当大会については、JSC（独立行政法人日本スポーツ振興センター）のスポーツ振興基金助成金を活用して実施する予定です。

4) ランキングマッチ

後述する選手選考の際のポイント対象の競技会として、国内ランキングマッチ大会を開催いたします。今年度は、全国的な開催地のバランスとアジア大会を考慮しシニア大会を年間 3 大会とし、またカデ、ジュニアの大会は回数を減らして選手の試合数や移動の負荷の軽減を試みます。

ポイント対象の競技会の予定については、**別紙 1** をご参照ください。

5) その他競技会

上記に加えて JSC のスポーツ振興くじの助成金を活用し、全日本ベテランフェンシング選手権大会、全国小学生フェンシング選手権大会（気仙沼）、全国中学生フェンシング選手権大会（駒沢）を開催する予定です。

また、国民スポーツ大会フェンシング競技を主管するほか、関係団体からの申請に基づく競技会の後援・協力をしていきます。

なお JSPO（公益財団法人日本スポーツ協会）では、時代に沿った国民スポーツ大会への改革を検討・推進しており、同大会第 5 期（2032 年第 86 回～2035 年第 89 回）を改革先行大会と位置づけ、フェンシングがダンススポーツとともに実施対象競技に指定されました。別添をご参照願います。

（3）国際競技大会等への代表参加者の選定及び派遣（定款 第 4 条第 3 号）

1) 派遣対象試合

下記の競技大会に日本代表選手を派遣します。

FIE（国際フェンシング連盟）シニアワールドカップ、FIE シニアグランプリ大会、世界選手権大会、アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）、アジア選手権大会、

ユースオリンピック競技大会、ジュニア・カデ世界選手権大会、ジュニア・カデアジア選手権大会、FIE ジュニア・カデワールドカップ、EFC（欧州フェンシング連盟）カデサーキット大会

2) 選考基準

別紙 2 の選考基準により選考します。強化本部、選手選考委員会を中心に、公平な評価となるよう最終選出まで評価表に基づき協議を重ね、選手が不利益を被らないよう慎重な選出をおこない、国際競技力の向上に努めてまいります。

(4) 競技力向上事業の実施並びに調査研究(定款 第4条第4号)

1) 競技力の向上

昨年7月の世界選手権大会(2025/ジョージア・トビリシ)では、日本フェンシング界史上初となる男子エペ個人・団体での金メダルをはじめ、3個のメダルを獲得いたしました。

メダルの内訳は以下の通りです。

金メダル: 男子エペ団体(加納・山田・古俣・浅海)

金メダル: 加納虹輝(男子エペ個人)

銅メダル: 山田優(男子エペ個人)

一昨年のパリオリンピック(5個のメダル獲得)には届きませんでしたが、女子フルーレ団体・男子サーブル団体、女子サーブルの3種目が4位入賞、また個人戦においても上野優佳(女子フルーレ)、飯村一輝(男子フルーレ)が6位入賞し、計5種目にてメダルマッチを争うなど、依然として複数メダル獲得のポテンシャルを発揮しております。

また、昨年6月のアジア選手権大会におきましては日本勢として個人団体過去最多11個(金7個)のメダルを獲得し、国別メダル獲得ランキングでも1位となりました。

一方、オリンピックでの活躍のみならず、スポーツ庁・JSC・JOCと協働で推進する『強化戦略プラン』に基づいた継続的な育成強化の成果として、世界カデ世界選手権において2個のメダルを獲得いたしました。高水準の国際競技力向上、さらに恒久的にオリンピックでメダルを獲得するためには、アンダーカテゴリーの育成強化が不可欠であり、継続的な育成強化事業を実施してまいります。

昨年度 JSC 指導のもとに策定したアスリートパスウェイの指標となるフェンシング競技の日本版 FTEM^{※注1}を運用し、普及から育成、強化の各フェーズを可視化できる指標として現場レベルからの普及、そして今後の全国展開を計画しております。

今後もフェンシング競技の競技力向上とともに、日本スポーツ界の競技力向上への貢献にも努めてまいります。

※注1 アスリート育成パスウェイを育成の過程に合わせて、Foundation、Talent、Elite、Masteryの4段階に分けたFTEMフレームワーク

2) 競技者育成

2003年から競技者育成事業を実施しており、2008年よりJSCスポーツ振興くじの助成金を活用し、「NAVI事業^{※注2}」と称して継続的に事業を実施しております。NAVI事業は将来日本を代表して世界で活躍する選手を輩出するべく、ジュニア・カデ・ミニム各カテゴリーの国内上位選手に向けた一貫・継続した指導を通して、定期的な国内合宿及び国際大会派遣を実施し、有望選手の発掘育成及び競技力及び技量の向上に努めています。

例年通り各カテゴリー3～7回の国内合宿(NAVIキャンプ)、1～3回程度の国際大会派遣の計画に沿った助成金の獲得及び実施を検討しています。

また、2009年よりJOCエリートアカデミー事業へ参画し、継続的な有望選手の輩出に努めており、現在はサーブル種目に特化した選手の発掘と育成を行っております。

2026年度は、高校2年生女子選手(福岡県出身)と高校1年生女子選手(愛媛県出身)の在校生2名に、新たに入学した中学2年生女子選手(東京都出身)1名を加えた3名のアカデミー生が、競技生活を行っています。選手の育成強化への輩出を継続するべく、今後も積極的に地方自治体のタレント発掘事業との連携や競技会の視察、選考キャンプを通じて有望選手の発掘に取り組んでまいります。

※注2 the Next-generation Athletes aiming at Victory in International competitions の育成事業

3) 情報分析

競技力向上のため、有益な情報を提供する情報分析を行っており、データベース化を推し進めてまいりました。また強化拠点である HPSC（ハイパフォーマンススポーツセンター）内 JISS（国立スポーツ科学センター）の研究者から各データ収集についてご協力をいただき、分析力の向上に努めております。

また、2026 年度より『強化活動の DX 促進支援事業助成』への取り組みを開始し、JSC、JOC の指導の下、引き続き、分析手法のマニュアル化、分析手法の講習会、分析内容の開示に取り組んでいる状況にあります。

4) 指導者の育成

指導者育成においては、各都道府県へ日本代表チームのコーチを派遣し、地域で活動する選手への直接指導や、現地指導者に対する技術指導やコーチングに関する助言を実施しました。これにより、代表チームの指導方法や最新の競技情報を共有し、地域における指導力の向上を図りました。

さらに、ナショナルトレーニングセンターで実施した NAVI キャンプに、ジュニア・カデカテゴリーの指導に関わるコーチを招聘し、日本代表コーチの実践的な指導の見学、選手育成に関する考え方や指導手法について意見交換を行なう場を設けることができました。

また、フェンシング競技の普及発展および競技力の向上のため、継続的に質の高い指導者を全国に配置することを目指し、フェンシング専門科目の公認コーチ 1、3、4 養成講習会および更新研修会を開催してまいりました。

今期も昨年同様公認コーチ 3 養成講習会の開催、各都道府県でのコーチ 1 の開催を予定しています。併せて、昨年度から実施を開始した、地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、学校運動部活動等において、必要最低限度の知識・技能に基づき、フェンシング競技の上位資格者と協力して安全で効果的な活動を提供する者を養成するためのスタートコーチ養成講習会も、今年度は京都府にて実施を予定しております。

なお JSPO より「NF（中央競技団体）主催大会での監督・コーチの公認スポーツ指導者資格取得の義務付け」に関する通知があり、2024 年 4 月 12 日付け当協会ホームページにて発信の通り、昨年度から全日本選手権でのコーチ資格保有が必須となりました。今後は国内競技会においても、順次公認コーチ指導者資格の義務付けを図ってまいります。

5) 審判員育成および派遣

審判員の育成、国際審判員派遣、国内競技大会への審判員派遣については、以下の活動を計画しています。

審判講習会・審判試験

次の開催を予定しています。

- ・ 関西学連審判講習会・審判試験（2026 年 9 月 26 日～27 日）
- ・ 関東学連審判講習会・審判試験（2027 年 2 月 27 日～28 日）
- ・ 中央審判講習会・審判試験（2027 年 2 月）
- ・ 地方審判講習会・審判試験（未定）

なお、他のブロックからの開催要請等については、随時柔軟に対応いたします。

審判員・役員の派遣

下記の国内競技大会に審判員及び役員を派遣します。尚、ルール・審判委員会では、これらの大会に担当責任者を配置し、運営・進行等大会に支障のないようにします。

- ・ 全国高等学校総合体育大会フェンシング競技大会
- ・ 全国高等学校選抜フェンシング大会
- ・ 全日本選手権（個人戦）大会
- ・ 全日本選手権（団体戦）大会
- ・ 国民体育大会フェンシング競技大会
- ・ ランキングマッチ大会、等

国際審判員強化及びFIE 国際審判試験の受験支援

- ・ 国際審判員強化のために、ジュニア・カデ及びシニアの各種ワールドカップ等の国際競技大会に審判員・役員を派遣します。
- ・ FIE 国際審判試験の受験合格者には、JOC の国際審判員養成プログラム補助金を活用し、渡航費や宿泊費等の支援をします。

審判員制度の周知と審判員登録の強化

協会公認審判員は、審判員登録が義務付けられています。また、当協会主催競技大会において審判員として参加できるのは、国内審判員試験に合格し、審判員登録をしている審判員でなければなりません。審判員登録の普及をより一層浸透させていきます。

FIE 試合規則（競技規則・組織規則・用具規則）及びFIE 定款の更新の周知

FIE 試合規則が更新された場合、直ちに当協会ホームページのトップページにアナウンスするとともに、競技会情報のルール内に詳細情報を掲載し周知を徹底します。

FIE ルール変更等への迅速な対応

FIE 及びFCA（アジアフェンシング連盟）との連携強化と情報収集を積極的に図り、ルールの変更や修正が発表された場合は、確認の上速やかに対応します。

最優秀審判員の表彰

FIE 主催各競技大会及び当協会主催各競技大会に参加した審判員の中から、その実績と技術そして指導力等を考慮した上で、最優秀審判員を選出し表彰します。

6) 規則の制定および用具の安全に関する事業

安全の基準に関わるルールについては、機会あるごとに登録会員および用具販売業者等に対し、周知の徹底を図ります。また当協会の主催する競技会においては、DT（技術委員会）と用具検査官（または担当）、審判員等関係者が密に連携し、ルールの遵守と安全性の確保に努めます。

各競技大会出場者の傷害保険加入については、主管団体と連携して加入を徹底します。

各支部傘下のフェンシングクラブ等には、所属する全員がスポーツ安全協会保険に加入するよう指導します。

7) 競技会におけるドーピング検査

アンチ・ドーピングにかかる活動は、JSC のスポーツじ助成金を活用しています。JADA(日本アンチ・ドーピング機構)より指名を受けた当協会主催大会において、ドーピング検査を実施いたします。併せて各年齢別国内ランキング上位者等へ向けた合宿時のクリーンスポーツ講習会実施など、今後も引き続きアンチ・ドーピングの啓発を進めてまいります。

8) 医学的サポート

今期の達成目標としては以下の通りとなります。

- ① メディカルチェックへの関与
- ② 国内外大会へのドクター、トレーナー派遣
- ③ 海外遠征時のドクターへの医療相談体制の構築
- ④ スポーツドクター、アスレティックトレーナーの育成
- ⑤ 医・科学情報の収集
- ⑥ 2026 年に開催される愛知名古屋アジア競技大会の大会運営協力
- ⑦ オリ・パラ一体の救護体制、人材育成
- ⑧ 国際的な活動に関与

上記の達成目標ごとに実施項目、実績は以下の通りとなります。

- ① JISS におけるメディカルチェックにドクターを派遣し、選手の怪我および疾患の早期発見、早期治療に取り組むとともに、得られたデータを検証し怪我および疾患の予防に取り組む。
- ② 当協会主催大会にドクター、トレーナーを派遣し、選手・スタッフの怪我や疾病に対応し、選手・スタッフの健康を守る。2026 年度よりは、当協会認定大会の地域ランキングマッチにも当協会ドクターを派遣、同時に地域ドクター、トレーナーの育成を行う。
- ③ 海外遠征時、日本のドクターへの医療相談を行う体制を構築する。
- ④ JSPO 公認スポーツドクター、スポーツデンティスト、スポーツファーマシスト、アスレティックトレーナーの養成講習会に推薦をし、資格取得者に活動に参加していただく。
- ⑤ 各種医・科学的な情報を提供し、科学的なエビデンスを得るために必要な研究について実施の検討を行う。脳振盪のベースライン測定を、強化指定選手について実施する。
- ⑥ 2026 年に開催される愛知名古屋アジア競技大会に、医科学委員会よりドクター、トレーナーを 1 名ずつ責任者として選出し、大会運営の準備にあたる。競技大会中にはそれぞれ、選手用医療責任者、責任トレーナーとして従事する。
- ⑦ パラフェンシング医事委員会と連携し、オリ・パラ協力体制を推し進め、ドクターについてはオリ・パラ一体で年間の救護活動を行う。アジア競技大会より開始。
- ⑧ IOC(国際オリンピック委員会)による SO(セーフガーディングオフィサー) 資格取得を推し進め、FIE や FCA が主催する大会で委員として活動することを目指す。2026 年には 1 名の SO を輩出し、国内外で開催される国際大会への正式派遣が可能となる。

9) 渉外・国際

1. FIE 関連活動に円滑かつ的確に対応します。
2. FCA 関連活動に円滑かつ的確に対応します。

3. LA オリンピックに向け、強化本部及び関連諸活動に協力します。
4. FIE 及び FCA の日本人役員・委員等の活動を支援します。
5. スポーツ庁、JOC、JSC、JSPO 等関係団体と良好な協力関係を維持・強化し、所要の国際貢献事業を実施します。

(5) 前各号に付随する一切の業務（定款 第 4 条第 5 号）

1) 中期計画の策定

令和 5 年度に策定した中期計画の骨子である「競技人口の増加」「発信力強化」「持続可能な強化・育成の体制構築」「経営基盤の強化」を重点施策として推し進めてまいりました。

「競技人口の増加」につきましては、協会登録者数の目標である 10,000 人には遠く及ばないもののおよそ 7,500 人に達し、若干ではありますが裾野の広がりが見えております。

「発信力強化」につきましては、協会内での体制づくりや他企業様との連携によりタイムリーなリリースの発信やメディアの拡大に努めてまいりました。しかしながらターゲット別情報発信媒体の選定・実施には至っておらず課題として残っています。

「持続的な強化・育成体制の構築」につきましては、ミニムからシニアにつながる育成・強化体制を見直し、それに伴い必要となる指導者ライセンス取得率向上に努めました。一方で日本代表のコーチ体制については、現状種目による差があり課題として残っています。

「経営基盤の強化」につきましては、理事体制構築、ガバナンスの強化、マーケティングの強化等課題が多くある中で、各理事の役割分担を明確にして課題に取り組んでまいりました。しかしながら、運営を左右する資金調達については一定の課題が残っています。

以上を踏まえ、今後 2026 年から 2028 年までの中期計画については、残された課題と 2032 年のブリスベンオリンピックを視野に入れ、現中期計画を刷新してまいります。

2) 組織運営基盤の強化

当協会の業務機能を整理し、組織・人材の最適化を進め、運営基盤を強化してまいりました。その結果、問題や課題を早期に把握し、その対応を含め今後の対策についても準備できる体制が整ってまいりました。

当協会の最優先事項でもある財務基盤の安定については、マーケティングの強化と広報との連携強化により一定の効果を得たものの、まだまだ強化・改善の課題が残っています。盤石な財務基盤の構築には更なるスポンサーの開拓が必要な状況にあります。

3) ガバナンス向上

JSPO による「スポーツ団体ガバナンスコード審査」の指摘事項に真摯に向き合い、当協会における改善対応を完了し、現在はガバナンス向上に向けた取り組みの定着に努めております。組織運営の強化を図るため、幅広い意見を反映した「人材の採用及び育成計画」を新たに策定・公表し、中期計画に反映して運用を開始いたしました。コンプライアンス委員会については、役割や権限事項を明確化したうえで組織的に運用し、実施状況の点検、リスク把握、および研修等の意識啓発を継続的に

実施しております。処分制度においては、「倫理・懲戒規程」の改正に基づき、処分の内容、理由、不服申立手続等を明記した書面による告知手順を厳格化し、公正かつ適正な手続きのもとで運用しております。

4) コンプライアンスの強化

今期の達成目標

1. リスクを把握し、コンプライアンス強化の方針・実施計画を策定し、推進する（コンプライアンス研修（行動規範研修を含む）、協会事業の実施方法の検討及び実施等）。
2. 倫理・懲戒規程の見直し、相談案件・不祥事等に対するフローの作成。
3. 相談窓口や内部通報等できた事案等（コンプライアンス委員会において対応する事案）についての調査・処分案答申。

実施する項目

1. コンプライアンス強化の方針・実施計画の策定。役職員、指導者、審判員、日本代表、U20、U17以下の協会事業に参加する選手、加盟団体等を含めた対象者別のコンプライアンス研修の内容と実施計画を策定し実施いたします。特に若手世代の選手に対する研修を、活動のタイミングに合わせて年に複数回実施いたします。また、リスクの内在する協会事業の実施方法を見直し、リスクを最小化した方法にて実施いたします。加えて、加盟団体及び協会に登録する指導者等のコンプライアンスについても強化を目指します。
2. 倫理・懲戒規程の内容の整理、他の規程との整合性の確認、関連する他の規定の整理をいたします。
3. 設置している相談窓口（内部通報窓口）の活用促進方法を検討し、相談案件・不祥事等に対するフローを作成いたします。
4. 具体的事案に応じて対応し、事案の内容によっては、協会の意見・考え方・方針を発信していきます。

目標達成に関わる課題

1. 協会の運営内容に沿った規程の策定。
2. 現場におけるリスク等の把握。現場の選手や指導者からの意見の聴取等。
3. 相談窓口等の活用できるように他部署と連携、その他選手・関係者へのPR等。
4. 具体的事案に応じて対応。

中期的に取り組む課題

1. 規定等の内容が現場・実務に対応できているかを検証し、適宜修正等を行う。
2. コンプライアンス研修実施状況を確認し、その内容の検証を行い、組織的・継続的に来期以降実施していくシステム作りを検討していく。
3. 現場に応じた相談窓口等の設置になっているのかを検証し、適宜修正等を行う。
4. 具体的事案に応じて対応するため特にはないが、事案の内容によっては規程類の見直しをする。

2. 予算案

(1) 予算概要

1. 今期（第36期 2025年9月-2026年8月）は、全日本選手権個人戦および高円宮杯の支出を見直し、大幅な経費削減に努めた結果、物価上昇局面にありながら経常費用を抑えることができました。
2. また、この数年低落傾向にありました事業収益（協賛金・広告費）が回復基調に入り、正味財産増減の黒字幅は前期を上回る見込みです。
3. 来期（2026年9月-2027年8月）は、上記1.の両大会で切り詰めた運営内容を活気あるものに戻すための投資として、FIEからの指導も交えながら大会運営費を増額させます。
4. その対処として、2028年にLAオリンピックが控えていることを足掛かりに、当協会全員による活発なマーケティング活動を行い事業収益のさらなる拡大を図ります。
5. 上記3.の大会運営費のみならず、昨今の物価上昇と円安を反映し、多くの経常費用が増額にならざるを得ませんが、遠征費用に反映される受取負担金の確保等、厳しい情勢にありながらも黒字予算を計画します。
6. 我が国フェンシング界のさらなる発展のために、積極的な普及活動と意欲的な投資活動、それらを支える収益の確保を目指してまいります。

(2) 予算詳細

第37期予算案の詳細は、別紙3のとおりです。

以上

(お知らせ)

事務局長の異動

就任 2026年2月16日付 松永 学

会 長	千田 健一				
副会長	釜谷 理恵	平野 博文	山口 俊昭		
専務理事	内田 敏朗				
常務理事	青木 雄介	上津 孝光	曾良中 研司	和田 潔	
理 事	及川 あずさ	菅原 智恵子	杉山 文野	谷崎 瑠珂	田淵 英孝
	恒松 健児	友利 杏奈	長倉 純平	前畑 順一	吉野谷 綾子
監 事	久保 直生	中村 規代実			

別紙 1

※水色はFJE主催大会

2026/5/8

区分	種目	2026国内ポイント大会一覧	日程		開催地
			男子	女子	
シニア	フルーレ	島原フルーレランキングマッチ	2026/07/18-07/20	2026/07/18-07/20	長崎県
		東京都シニアフルーレ個人選手権大会ランキングマッチ	2026/10/3	2026/10/24	東京都
		第79回全日本フェンシング選手権大会（個人戦）	2026/10/30-11/1	2026/10/30-11/1	東京都
	エペ	SAGAフェンシングエペジャパンランキングマッチ	2026/07/11-07/12	2026/07/11-07/12	佐賀県
		東京都シニアエペ個人選手権大会ランキングマッチ	2026/5/31	2026/5/30	東京都
		第79回全日本フェンシング選手権大会（個人戦）	2026/10/30-11/1	2026/10/30-11/1	東京都
	サーブル	東京都シニアサーブル個人選手権大会ランキングマッチ	2026/6/13	2026/5/30	東京都
		Proud NUMAZU CUPフェンシング選手権サーブルランキングマッチ	2026/11/14-11/15	2026/11/14-11/15	静岡県
		第79回全日本フェンシング選手権大会（個人戦）	2026/10/30-11/1	2026/10/30-11/1	東京都
ジュニア	フルーレ	東京都ジュニアフルーレ個人選手権大会ランキングマッチ	2026/5/17	2026/6/27	東京都
		牧杯ジュニアフルーレフェンシング選手権大会	2026/09/19-09/20	2026/09/19-09/20	京都府
		島原フルーレランキングマッチ	2026/07/18-07/20	2026/07/18-07/20	長崎県
		第34回JOCジュニアオリンピックカップフェンシング大会	2027/01/07-01/10	2027/01/07-01/10	群馬県
	エペ	加納紅梅杯ジュニア・カデ・エペ・ランキングマッチ	2026/08/28-08/30	2026/08/28-08/30	山口県
		香港ホストタウン記念フェンシング大会兼上杉大会ランキングマッチ	2026/10/24-10/25	2026/10/24-10/25	山形県
		全国ジュニアエペ フェンシング選手権大会ランキングマッチ	2026/11/22-11/23	2026/11/22-11/23	長野県
		第34回JOCジュニアオリンピックカップフェンシング大会	2027/01/07-01/10	2027/01/07-01/10	群馬県
	サーブル	牧杯ジュニアサーブルフェンシング選手権大会	2026/09/19-09/20	2026/09/19-09/20	京都府
		日田市フェンシングランキングマッチ	2026/10/03-10/04	2026/10/03-10/04	大分県
		Proud NUMAZU CUPフェンシング選手権サーブルランキングマッチ	2026/11/14-11/15	2026/11/14-11/15	静岡県
		第34回JOCジュニアオリンピックカップフェンシング大会	2027/01/07-01/10	2027/01/07-01/10	群馬県
カデ	フルーレ	東京都カデフルーレ個人選手権大会ランキングマッチ	2026/4/18	2026/4/12	東京都
		島原フルーレランキングマッチ	2026/07/18-07/20	2026/07/18-07/20	長崎県
		全国カデフェンシング選手権大会ランキングマッチ	2026/11/14-11/15	2026/11/14-11/15	茨城県
		第34回JOCジュニアオリンピックカップフェンシング大会	2027/01/07-01/10	2027/01/07-01/10	群馬県
	エペ	加納紅梅杯ジュニア・カデ・エペ・ランキングマッチ	2026/08/28-08/30	2026/08/28-08/30	山口県
		香港ホストタウン記念フェンシング大会兼上杉大会ランキングマッチ	2026/10/24-10/25	2026/10/24-10/25	山形県
		全国カデ・エペ フェンシング選手権大会ランキングマッチ	2026/11/21-11/22	2026/11/21-11/22	長野県
		第34回JOCジュニアオリンピックカップフェンシング大会	2027/01/07-01/10	2027/01/07-01/10	群馬県
	サーブル	日田市フェンシングランキングマッチ	2026/10/03-10/04	2026/10/03-10/04	大分県
		ランキングマッチSaber championship	2026/10/31-11/1	2026/10/31-11/1	山口県
		Proud NUMAZU CUPフェンシング選手権サーブルランキングマッチ	2026/11/14-11/15	2026/11/14-11/15	静岡県
		第34回JOCジュニアオリンピックカップフェンシング大会	2027/01/07-01/10	2027/01/07-01/10	群馬県

※詳細は各大会の要項をご参照ください。

シニア：3大会中の3大会の上位獲得ポイントとする。

ジュニア：4大会中の3大会の上位獲得ポイントとする。

カデ：4大会中の3大会の上位獲得ポイントとする。

【その他お知らせ】

ランキングマッチに参加予定の選手は6月30日までに協会登録を完了し、出場日は登録証を携帯すること。

登録なしで出場した場合は、該当大会のポイントは付与されません。

全日本選手権大会個人戦、団体戦のベンチに入る監督・コーチは有資格者のみが認められます。

(公社) 日本フェンシング協会

＜アジア選手権・世界選手権 選手選定フローチャート＞

1 アジア選手権

開催時期：2026年6月19日～2026年6月24日

開催場所：インド・デリー

派遣選手確定日（最終ペ切り日）：2026年5月31日

上記選手選定のランキング参考日：2026年5月24日(大会終了後の反映済ランキング)

2 世界選手権

開催時期：2026年7月22日～2026年7月30日

開催場所：香港

派遣選手確定日（最終ペ切り日）：2026年5月31日

上記選手選定のランキング参考日：2026年5月24日(大会終了後の反映済ランキング)

1 アジア選手権及び2 世界選手権ともに、下記人数及び選考方法により原則同じ選手を派遣する。

・個人戦（4名＋リザーブ1名）

－FIE2025-2026 シーズンに開催されたワールドカップ5大会、グランプリ大会3大会の合計8大会中6大会^{※1}の成績から上位2名（1位及び2位）は確定とし、強化本部推薦2名^{※2}、リザーブ1名を派遣する。

・団体戦（4名＋リザーブ1名）

－上記より4名

※1…本シーズンにおけるワールドカップ及びグランプリの内、大会の延期や中止があった場合は選考大会数を適宜見直す。感染症、天災、地災、戦争、暴動、関係政府及び期間の規制など本協会の責に帰さない事由により該当大会の開催時期に変更が生じた場合、選考方法を見直すことができる。なお、FIE サテライト大会は当該大会選考の対象外とする。

※2…但し、代表選手の怪我、ブラックカードによる出場停止、コンディションの低下や著しくパフォーマンスを欠いている状態など、変更が必須であると判断できる場合には、強化本部推薦者とリザーブ選手、あるいは次点候補者との入れ替えが生じる場合がある。

リザーブ選手も明確にチームの一員であり、いかなる局面においてもスタンバイし、良いコンディションを維持することが求められる。

1 第一次候補者の選定

ワールドカップ5大会、グランプリ大会3大会の合計8大会終了後、同8大会中6大会の成績上位4名＋強化本部推薦候補者3名（※）

（※）強化本部から推薦される候補者3名

- ・ワールドカップ5大会、グランプリ大会3大会の合計8大会終了後、同8大会中6大会の成績上位者と同等な実力を有し当該大会において相当なパフォーマンスを発揮することが可能な選手
- ・日本代表としての行動規範を遵守しチームの和を重んじることのできる人物¹
- ・具体的、客観的な推薦基準に基づき推薦する（◇）。

（◇）【推薦基準】

別紙－エクセル表①第一次候補選定のための評価シートに基づき派遣選手を選出

〔第1次優先基準〕 注) ①→②の順に推薦する。

- ① 過去2シーズン内にオリンピック・世界選手権・アジア選手権において入賞以上の戦績を残した者（アジア選手権団体はメダル獲得）
- ② 強化合宿や強化練習時に、コーチが多角的なスキルチェックを行ない、技術の正確性や状況を打開する個の力、ゲームメイクできる戦術など、適所に選出の材料になる質の高いパフォーマンスを発揮した者（競技力スキル評価基準）

〔第2次優先基準〕 注) ①→②→③→④→⑤の順に推薦する。

- ① 過去2シーズン内に FIE ランキング 16 位以内にランクインされていた者
- ② 過去2シーズン内にワールドカップ入賞(ベスト 8)以上の戦績を残した者
- ③ 強化合宿等で行われる練習試合やスコアを記録する試合形式の練習など、適所に選出の材料になる質の高いパフォーマンスを発揮した者（競技力スキル評価基準）
- ④ 過去2シーズン内の全日本選手権個人優勝者

< 3名の強化本部推薦候補選手決定の手続き >

- (1) 強化本部から選手選考委員会に推薦理由書を提出
- (2) 選手選考委員会において、強化本部長が各選手について推薦された理由を説明
- (3) 選手選考委員会は、推薦理由書を元に、当該選手が推薦基準等に照らして推薦が妥当かについて審議、議決する。

¹ 日本代表候補選手（ワールドカップ派遣等）として求められる資質と同様

2 アジア選手権・世界選手権派遣候補者選定

第1次候補者を強化合宿、強化練習において、競技力及び代表選手に必要とされる要素を備えているかを確認し、その中からアジア選手権・世界選手権派遣選手4名及びリザーブ1名を選考する。

ただし、ワールドカップ5大会、グランプリ大会3大会の合計8大会終了後、同8大会中6大会の成績上位2名（1位及び2位）は優先的に選出する。

残り2名については、第1候補者の中の5名の中から、派遣選手2名及びリザーブ1名を選出する（*）。

（*）【派遣選出基準】

アジア選手権・世界選手権派遣選手選出のための評価シートに基づき派遣選手を選出

<最終派遣選手選定までの手続>

- （1）強化本部の方で上記（*）によって選出した2名及びリザーブ1名の候補者について、選手選考委員会に推薦理由書（参考資料）を提出する。
- （2）選手選考委員会で、強化本部から選出された選手について、手続・選考基準等の観点から問題ないかを審議して承認する。
- （3）理事会に、アジア選手権・世界選手権派遣選手として選出され、選手選考委員会で承認された4名及びリザーブ1名について、アジア選手権・世界選手権派遣選手として理事会にて承認を受ける。

以上

第37期 予算案

(単位：千円)

科 目	32期 実績 21/9-22/8	33期 実績 22/9-23/8	34期 実績 23/9-24/8	35期 実績 24/9-25/8	36期 見込 25/9-26/8	37期 予算案 26/9-27/8
(1) 経常収益						
①基本財産運用益	252	182	0	0	0	0
②受取会費	27,465	28,550	28,215	46,172	31,139	32,490
③事業収益	165,444	115,447	80,565	82,566	89,012	120,300
④受取補助金等	350,877	315,442	301,548	351,413	299,665	321,900
⑤受取負担金	119,033	288,534	321,870	294,960	384,449	401,800
⑥受取寄付金	42,070	6,690	21,811	56,918	31,070	0
⑦雑収益	6,365	6,133	4,410	4,443	3,994	3,650
経常収益計	711,506	760,978	758,417	836,472	839,329	880,140
(2) 経常費用						
①事業費	659,270	749,470	795,289	824,881	815,494	854,815
給料手当	42,835	41,471	45,669	46,333	46,565	47,962
賞与手当	2,090	8,048	6,324	7,595	7,611	7,839
退職給付費用		1,132	612	1,401	0	0
法定福利費	4,806	6,920	6,235	9,012	9,674	9,964
福利厚生費		215	308	254	0	0
海外交通費	241,322	376,426	338,841	334,158	369,023	380,094
国内交通費	79,726	68,650	99,035	90,301	93,727	96,539
会場費	20,007	11,220	17,611	14,130	17,476	14,300
海外審判費		852	630	0	67	0
消耗品費	11,969	5,097	10,172	10,240	10,270	10,578
修繕費	66	714	1,886	214	909	936
印刷製本費	3,144	1,750	1,901	1,561	891	500
光熱水料費		155	135	145	0	0
賃借料	13,410	11,810	9,900	9,791	6,302	6,500
保険料	4,035	4,699	4,321	3,668	4,150	4,200
諸謝金	56,420	62,818	66,837	80,285	84,989	85,500
支払負担金	15,450	13,927	29,643	32,593	33,105	34,500
業務委託費	17,286	21,975	18,394	19,376	20,436	21,000
大会運営費	72,867	43,719	60,326	74,971	28,294	50,000
合宿費	1,856	3,491	2,626	6,295	6,398	6,500
遠征栄養費	34,842	37,363	38,647	34,328	35,503	36,568
通信運搬費	8,988	10,656	13,387	15,928	15,543	16,009
会議費	11	588	519	721	329	300
交際接待費		40	52	73	0	0
リース料		357	357	357	0	0
支払手数料	14,781	7,068	12,263	8,220	9,365	9,665
租税公課	10,284	5,617	7,025	15,306	12,150	12,500
減価償却費	2,505	2,024	330	166	330	350
支払利息		0	418	0	0	0
雑費	569	669	886	7,457	2,387	2,510
②管理費	42,845	9,424	8,498	10,960	15,641	18,877
経常費用計	702,115	758,894	803,787	835,841	831,135	873,692
経常外収益計	24,500	0	0	0	0	0
当期経常増減額	9,392	2,084	-45,369	630	8,194	6,448
一般正味財産期首残高	42,891	76,783	78,867	33,497	34,128	42,321
一般正味財産期末残高	76,783	78,867	33,497	34,128	42,321	48,769